



2014年6月23日

各位

2013年度 受信状況について

年間受信件数 4年連続で2万3千件を超える

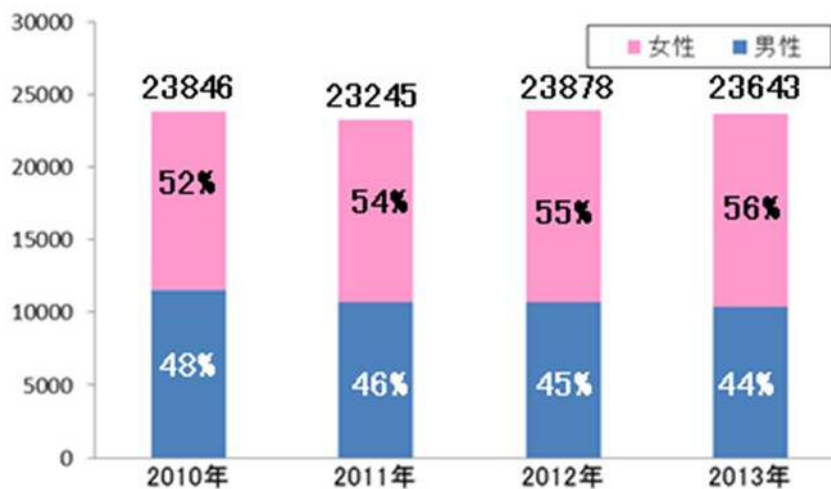
社会福祉法人 関西いのちの電話では、1973年に創設して以来、様々な自由で生きる希望をなくしている人たちや孤独に苦しむ人たちの声に、24時間365日体制でひたすら耳を傾けてきました。その活動は、名もなきボランティア相談員たちの力によって支えられ、またその運営は、企業や個人からの善意の寄付によって支えられています。

関西いのちの電話では、相談員が記録した受信カードをもとに、1年間の受信状況について分析を行っています。この度、2013年度分をまとめましたので、概要のみ報告致します。

2013年度 全体の傾向

年間の受信件数は23,643件で、2010年度から4年連続で2万3千件を超えました。これは関西いのちの電話の相談員が受信した総件数であり、この中には、日本いのちの電話連盟として毎月10日に実施している「自殺予防フリーダイヤル」の件数も含まれています。

<男女別相談件数>





全体の56%が女性で男性よりも多く、その傾向に変化はありません。女性の主訴として一番多いのが、うつ病など心の病に関する悩みで、次が家族との関係、そして生き方や孤独という人生に関するものという順になっています。一方、男性は人生に関するものが最も多く、次に心の病に関するものとなっています。

年代別では、40代、30代、50代の順で多く、さらに性別と未婚／既婚別で見ると、40代既婚女性、40代未婚男性、30代未婚男性、50代既婚女性という順で、その傾向も変化はありません。

自殺傾向について

「自殺したい」という訴えは、全体の17%で前年より若干減少しました。その内、女性は20%で前年と同じ、男性は12%で減少しました。自殺傾向は若い女性の方が高く、20代未婚女性、20代既婚女性、30代未婚女性という順でした。自殺の要因の一つでもある心の病は、全体としては59%で前年より若干減少傾向ですが、女性はどの年代でも多く、特に30代未婚女性では8割が心の病を抱えているという状況でした。

警察庁発表の自殺者数は男性が女性の2倍以上であるのに対し、電話相談は女性が男性の2倍。自殺したいほど追い込まれている人たちの中には、支援策の一つである電話相談にまだまだ辿り着いていない人がいるという状況が伺われます。

一方、「自殺予防フリーダイヤル」では、男性が全体の54%と女性よりも多く、30代男性、40代男性、40代女性という順になっています。こちらの主訴も、生き方や孤独、心の病に関するものが多く、男性はそれらに加え失業などの仕事の悩み、女性は家族の問題や人間関係を訴える人が多いという状況です。

経済不安や孤独など将来への不安が蔓延し、生きづらさを多くの方々が抱えている中、私たちの活動は今後もより一層求められることと確信しています。相談員一人ひとりが、これからも悩める人々の声に耳を傾け続けます。

引き続きご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人 関西いのちの電話 事務局

大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

TEL : 06-6308-6868 e-mail: kaind@x.age.ne.jp